

放送日 令和6年9月2日（月）
担当者 環境課 見山 堯

おはようございます。市民環境部環境課の見山堯です。令和6年4月から本格稼働している焼却施設の「焼」の傍の部分できょうと読みます。珍しい名前ですが、馴染みある発音だと思いますので、覚えていただければ幸いです。そんな私の名前は、中国神話に登場する堯という人物に由来しています。堯は非常に謙虚な性格で、人々から慕われる君主だったと言われていました。その名に恥じぬよう、市民の方々からだけでなく、職員の皆様からも信頼される職員になりたいと思っています。

さて、私は新卒採用で今年度から環境課に配属され、初めてがっぱいの仕事をしていますが、何を始めるにも必ず意識していることがあります。それは、「やる気をだすこと」と「元気であること」です。この2点を誰よりも強く維持することが、新人の強みになるとと思っています。まだできないことばかりですが、やる気元気で頑張ることだけはいつでもできるので、徹底していきたいと思っています。

また、私が配属された環境課は、情に厚い方ばかりで、熱いご指導をいただけることに非常に感謝しています。この御恩を返すため、強い人間として成長し、いつか羽ばたく姿を見せたいと思っています。

奇しくも本日誕生日を迎えましたが、この記念すべき日のスピーチを肝に銘じ、私の元気で北広島市をさらに活性化させる意気込みで尽力してまいりますので、よろしく願いいたします。

放送日 令和6年9月4日（水）
担当者 福祉課 山崎 夢々

おはようございます。保健福祉部福祉課の山崎夢々です。今年の4月に入庁し、5か月が経過しました。社会人としての生活にも慣れてきたように感じています。

私は福祉課の中でも生活保護に関する業務を担当しています。大学時代は農学や畜産学について学んでいたため、入庁の時点では福祉や生活保護の知識はほとんどありませんでした。現在では、先輩や上司のみなさんの指導のおかげで生活保護の制度やシステムの入力についての知識は増えてきてはいますが、まだまだ努力が必要だと感じています。

特にケースワーカーとしての難しさを感じているのは、保護世帯ごとに状況が異なり、必要な支援も違う点です。入庁してから5か月間ケースワーカーとして市民の皆様と交流する中で、相手の言動の裏側にあるその方が抱える本当の課題に寄り添い、自立を支援していくことの責任の重さや難しさを実感しました。7月、8月に参加した全道、全国の生活保護ケースワーカーの研修会では、ケースワーカーは相手のよき相談相手であるべきであり、面接時には相手のいいところ、ストレングスを見つけていくことが信頼関係の構築に必要であることを学びました。ケースワーカーとしてだけでなく、市職員としての業務はすべて信頼関係によって成り立っていると考えるので、電話や窓口対応の際にも相手の話を傾聴し、ストレングスに着目することでよき相談相手として信頼感を得られるように努めていきたいです。

放送日 令和6年9月6日（金）
担当者 地域おこし協力隊 伊藤 飛鳥

おはようございます。地域おこし協力隊の伊藤飛鳥です。今年の4月に着任しまして、半年が経ちました。

着任してから、市内の様々な事業者の方とお会いしたり、イベントなどを経験したり、北広島市内を改めて知る機会となっています。

地域おこし協力隊として、私の活動内容はフリーミッション型なので、特技を活かした活動ができたかと考えています。

先週31日には、大曲地区の夢プラザで開催された「きたひろ産業博覧会 in 2024」で、乳幼児親子や小学生を対象とした「作ってあそぼう！工作屋さん」というタイトルのワークショップを開催させていただきました。私自身が、児童館や子どもに携わる事業の経験を活かせると考えたからです。

当日は、たくさんの方に来ていただき、市民の方と直接お話ししたり、私自身も楽しみながら活動させていただきました。また、この日に合わせて市内の事業者さんと「きたひろ名物を作ろう」と開発に取り組んできた「きたひろおやき」のお披露目会ともなりました。それぞれの店舗のオリジナル具材が入った6種類のおやきを会場で焼いて販売し、完売となりました。私はパッケージのデザインを担当させていただきました。今後も継続して、少しずつ浸透し、定着するよう進めていきたいと考えています。

任期中の3年間、地域の方との関わりを大切にしながら、自身の得意分野でもあるイラストやランニング関連なども掛け合わせて、北広島市の発展につながる活動をしていきたいと考えています。

放送日 令和6年9月9日（月）
担当者 福祉課 平山 貴翔

おはようございます。保健福祉部福祉課の平山貴翔です。

4月の研修からあっという間に5か月が過ぎました。最初は右も左もパソコンの付け方さえもわからない状態でしたが、今はなんとか自分のやるべきことや職員としての責任がわかってきました。4月のはじめ、研修以上に自分の部署に赴くことに対して緊張を感じていました。しかし、福祉課のみなさんが温かく迎え入れてくれて非常に救われたことを覚えています。今でも信頼できて優しい先輩たちに何度も救われています。市役所の業務は前例主義のように思っていたのですが、実際そのような単純なものではないことを日々痛感しています。疑問の目を持ち、本当にこれで正しいのかという視点を忘れず業務にあたっていきたいと強く思います。これまでは、業務を覚えることに必死でしたが、これからは少しずつ余裕を持って、落ち着きのある職員を目指したいです。

話は変わりますが、北広島市に来てから、その立地の良さに驚きました。市内では野球観戦ができ、西には札幌、東には空港という類稀なる立地は大変魅力的です。一方で、北広島という地名も魅力的な要素であると感じます。西日本の地名が北海道の中に存在するという唯一無二の都市であり、非常に強いアイデンティティをもっていると思います。今後さらなる成長が見込まれるこの北広島市で、自分も負けないうくらい成長していきたいと思えます。

放送日 令和6年9月11日（水）
担当者 健康推進課 笹倉 活哉

おはようございます。保健福祉部健康推進課の笹倉活哉です。

4月に入庁してから早くも5か月が経過しました。まだまだ至らないところだらけですが、先輩や上司の皆さんから優しくサポートしていただきながら、何とか業務に取り組んでいます。いつもありがとうございます。

さて、私は現在健康推進課で、管理栄養士として仕事をしています。栄養士と聞くと、献立を立てたり給食を作ったりというイメージがあるかと思いますが、私がこの課でさせていただいているのは、住民さんへの栄養相談などです。新人ながら、住民さんと話す機会を何度も設けていただいているのですが、いま一つ、上手く話せていないポイントがあります。それは、相手の食生活などを聞き取り、その中でこうしたほうがより良いのに、というところをそのまま指摘し、指導をしてしまうという点です。先輩方からは常に、住民さん一人一人に今までの人生で決めた生き方や考え方があり、そこをキチンと理解して寄り添おうとしなければ、正しい解決法を見出すことは出来ないと教えていただいています。自分の枠の中だけで正しいと思うことを話すのではなく、相手にとってより良い生活を送れるような真の相談を一日も早くできるように日々研鑽を積んでいきます。余談ですが、北広島市役所で男性の管理栄養士は私が初とのことですので、良い歴史を残せるような人材になりたいです。

放送日 令和6年9月18日（水）
担当者 子ども家庭課 白石 明日香

おはようございます。子育て支援部子ども家庭課の白石明日香です。

4月に入庁し、5か月が経過しました。普段は先輩方に保育に関する仕事を教えていただきながら、市内の保育園の給食の献立を考えています。優しい先輩や上司の方と頼もしい調理員さん達のおかげで、毎日無事に給食を提供できています。いつもありがとうございます。

本日は保育園の給食についてお伝えしたいと思います。保育園の管理栄養士は主に給食の献立の立案、食材の計算や発注、食育活動を行っています。毎日違うメニューを出せるように味付けや切り方を変える、新メニューの考案など日々工夫をしています。特にみそ汁の中身は被ることが多いので、何かいい具材を知っている方は教えてください。食育活動では、トウモロコシの皮むきやお楽しみ会でのおやつづくりなどを行っています。今日はこの後すみれ保育園の年長さんとカレーづくりをします。一人職で心細い時もありますが、子どもたちの「おいしい！」という声や、苦手な野菜を一生懸命食べてくれる姿が励みとなっています。

前任者の方が約30年つないできたバトンを新卒の私が受け取るのはとても不安です。まだ慣れないことも多く失敗もありますが、子どもたちと一緒に管理栄養士としても社会人としても成長し、食育のバトンを次の世代へつなげていきたいです。

放送日 令和6年9月25日（水）
担当者 すみれ保育園 久米 なつみ

おはようございます。子育て支援部すみれ保育園の久米なつみです。

4月に入庁し、5カ月が経過しました。少しずつ職場環境や保育業務に慣れてきたと実感しています。先輩保育士の方々には丁寧で、的確なご指導を頂いており、少しでも早く頼れる職員になれるよう努力をしていきたいと思えます。私は現在2歳児の担任をしており、日々元気いっぱいな子ども達に囲まれながら過ごしています。まだまだ、自分の能力や経験不足を感じる場面が多く、上手くいかず模索する日々ですが、私の保育士としての原動力になっているのは、「子どもの笑顔」です。保育の準備や事務作業など、大変なことが沢山ありますが、子どもの笑顔を見ると、「頑張った」「また頑張ろう」と思うことができます。また、子どもが今までできなかったことができるようになったり、友だちに優しい言葉をかけていたりする姿を見ると、自分事のように嬉しく思います。このように、保育を通して子どもが成長していく姿をそばで見守ることができるのは、保育士の仕事のやりがいであり、魅力でもあると思います。今後の目標は、子ども・保護者一人ひとりに寄り添い、理解を深め、丁寧な対応をすることです。子ども達と思いきり遊び、笑い合い、保育士として成長していくことができるよう仕事に取り組んでいきたいと思えます。

放送日 令和6年9月30日（月）
担当者 稲穂保育園 菅沼 杏美

おはようございます。稲穂保育園の菅沼杏美です。

4月の入庁から約半年が経ちました。まだ慣れないこともありますが、サポーターの先生をはじめ、先輩方にあたたかくご指導いただき、日々学びながら保育に励んでいます。

私は現在、0歳児クラスの担任をしています。クラスの子どもたちとは徐々に関係を築くことができ、今では私を見て嬉しそうに側に来てくれます。また、食事面や言葉、やりとりなど少しずつできることが増え、成長を間近で見る度に喜びとやりがいを感じています。しかしながら、保育士の仕事はただ子どもたちと過ごすだけではありません。ままごとや製作など遊びの一つをとっても、目の前の子どもたちの姿を見て、自分がどのように関われば遊びが広がり、子どもの育ちにつながるかを考え、一緒に遊び込んでいく姿勢が大切です。私もこれからさらに研鑽し、先輩方の保育からも学びながら、子どもたちの育ちに寄り添う保育士を目指していきます。

また、今の私は、保護者の方とのコミュニケーションにまだ課題があります。先輩方はどのクラスの保護者にも声をかけ関わっています。私も、その日の子どもの様子を伝え、あたたかな言葉をかけることを通して信頼関係を築いていきたいです。

そして、毎日明るい挨拶と感謝の気持ちを忘れず、子どもの思いを丁寧に受け止める保育士になれるよう頑張っていきます。